

クオリティ国家という戦略　これが日本の生きる道

著者 大前 研一　発行 小学館

日本の国民総生産(GDP)はかつて世界の18%を占めていたが今や6%がやっと、国家競争力ランキングでは10位、一人当たりGDP約370万円で世界18位
いま世界で繁栄している国のタイプには

{ ボリューム国家 }

経済規模が巨大で人口・労働力のボリュームと低コストの人件費を強みのブラジル・ロシア・インド・中国

{ クオリティ国家 }

人口3百万人～1千万人、一人当たりGDP4百万円以上で世界の繁栄を取り込むのが上手、人件費は高いが付加価値と生産性の高い人材で規模の拡大で質の向上を目指す国、国際競争力1～4位のスイス・シンガポール・スウェーデン・フィンランド

{ 資源国 }

一人当たりGDPが4百万円以上でクオリティ国家の条件を満たしていない国はカタール・アラブ首長国・オーストラリア・カナダ

{ スイスは最強のクオリティ国家 }

一人当たりGDPは8万1千ドル＝世界4位、債務残高は対GDP比41%

(日本219%)国民の給与レベルは世界最高水準かつ失業率は世界最低、物価は高いが住みやすい、しかも隣国から大勢の労働者が流入、法人税・所得税低い、九州と同程度の面積に人口787万人、時計メーカーとしては圧倒的に強い!

(ボリュームではなくデザインの良さと高級品ブランドを維持、一人の天才でいいと、日本は正確さと低コストで勝ったがブランド戦略を欠いている、デジタル世界を進化させた日本が低価額化で自分の首を絞めてしまった)

スイスの国際競争力が強い理由

- *国が企業を支援しない、カントン26(州・準州)と2889のコミューン(市町村)の力が強く連邦政府は上納の連邦税の範囲内で外交・防衛・通貨発行等を行う
- *職人芸、国立大学は2校のみ、大学進学率3割弱で専門職か農業、大学を卒業して職能教育を受けると一人前になるには35～40歳、一方中学から職能教育を始めて仕事すれば20歳半ばでエキスパートになれる

*移民が人口の3割を占める、しかも企業のトップでスイス人は少なく多国籍
～アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス人

国民皆兵を憲法で定め徴兵制度を採用、各家庭には自動小銃を保管、軍事訓練は
ひたすら山歩きすることで運動能力・体力向上、自給自足を集団生活に於ける
リーダーシップ養成としている

国家による社会保障はない、医療保険・年金は自分でかける自己責任で、民度
が高く、住民同志の {縛り} は極めて厳しい、直接民主制に多数決が絶対！

{ 事業戦略国家 }

シンガポール＝スイスに次ぐクオリティ国家、
東京23区と同じ面積で一人当たりGDPは1970年代に2000ドルで日本の5分
の一、2007年に日本を抜いてアジア最強、人口は300万人にすぎなかった日本
より少子高齢化～早々に移民政策を導入し、国が助成金を出して環境整備

世界中から優秀な人材100万人以上を輸入、世界トップクラスの人材を政府
自らヘッドハンティング、50坪マンションと国民を食わせていくことが政治家
の責任と30年かけて達成した、老後の不安なし・国家ファンドは過去30年平均
10%で運用している

労働集約産業→高付加価値→サービス知識集約型と5年計画で国家戦略策定
～町の人みんなが知っている、今はエンターテイメント→リゾート特にカジノ
＝複数のハブ拠点で世界を呼び込むシステム構築のうまさ（金融・港湾・医療・
研究開発・空港・教育・データマネージメント・コンベンション・観光等）

アメリカと中国は実はクオリティ国家の集合体である、シリコンバレー・ハリ
ウッド・金融はニューヨーク・商品取引はシカゴ・年金ファンドのアロケーショ
ンはボストン等産業のヘソが沢山ある

中国には人口100万人以上の都市が200余り、300万人以上の都市も多く、
地方の有力都市の市長は一種の王様の権限（意思決定早く強権）

{ 日本が学ぶべきクオリティ国家のしたたかさ }

クオリティ国家の多くは相続税ゼロにし（スイスは企業だけでなく個人富裕層も
引き寄せている）所得税も安くして世界中から企業・金・人材・情報呼び込ん
でいる、法人税の世界標準は先進国で25%、日本は40%と突出して高い、
ドイツとカナダはこの10年で20%台に引き下げ

{ 21世紀は決まった答えのない時代 }

デンマークの教育、世界の幸福度1位、答えを覚える教育から **{考える教育}**
に1990年代半ばから20年かけて教育改革、学校とは {らーん}

の場であり教えない、教育者はアドバイザー、教育費は無料

人口 558 万人充実した福祉と高度に組織化された農業が世界的に有名
国家戦略は食品分野・自然エネルギー・医療関連と小さな分野で世界企業輩出
デンマークとスウェーデンが隣接する地域に医療・医療機器・バイオ関連の研究施設・企業が集められ「メデコンバレー」として世界的に注目されている～300 万人の人口と 170 万人の労働力、北欧の医療・バイオ関連の 60%がここに

{ ドイツに真っ向から勝負を挑むスウェーデンの成功基準 }

義務教育の 9 年だけでなく高校・大学も授業料は無料一定の距離以上通学無料
ストックホルム大学がノーベル賞受賞や政治家を多く輩出しスウェーデンのシリコンバレーといわれる「シスタサイエンスパーク」は世界的な IT 産業の集積地、エリクソン・インテル・ノキアなど 700 社を超える IT 企業が立地

世界的な家具大手のイケアやファストファッション大手の H&M はスウェーデンで生まれドイツ市場で勝負して世界市場へと拡大、同国発の世界企業は家電のエレクトロラックス、移動通信インフラの最大手エリクソン、欧州有数の多国籍エネルギー企業のパッテンフォール、強みはデザイン性・百円ショップで人気

{ 超リラックス教育 フィンランドの秘密 }

人口 540 万人、1990 年代前半には経済成長率が 3 年連続してマイナスになる
経済危機に直面ブルーカラーの失業率は 50%にも達した、この時に教育システムをガラリと変えた、使われる側でなく使う側の人材を輩出するリーダーシップ教育

ヘルシンキ工科大学を中心に企業家養成に力を入れている、もう一つの特徴はデンマークと共通する生徒自らが {考える教育} を重視、韓国は詰め込み教育の代表格でフィンランドは超リラックス教育で国際的な教育調査のトップ常連～学力ランキングで上位の教育強国、2003 年～読解力で世界 1 位、更に親から学ぶ＝夏休みには家族で 1 ヶ月間森の中で生産されるものだけで生活する、そこで親は生きていくための様々な術を子供に伝授する

{ 理系強化・機能特化で天下を獲った・台湾企業群 }

語学力・人材能力も高い、理系大学生は兵役免除、官僚や学者もいずれは自分の会社を持ちたいと考え、デジタル産業は世界の覇者の勢い＝ホンハイは EMS に特化（電子機器の受託製造サービス）世界最大の EMS 企業（85 ヶ国に生産拠点・百万人の従業員・10 兆円売上）＝TSMC（台湾積体回路製造）は半導体の受託製造で世界トップ企業＝時価総額 5 兆円企業になった、両社はアップル最大顧客

{ 日本新生への新たなビジョン「クオリティ国家化」戦略 }

クオリティ国家はそれぞれの国が抱く危機感を原動力として 20 年ほどの期間をかけて国家戦略を大きく転換、その中でも一番重要な事は世界経済を徹底して受け入れる「規制撤廃」世界から人・モノ・金や企業、そして情報呼び込む側である日本が、入ってきやすく、働きやすく、魅力的な国になるために・・・
オーガナイズ・スモール＝企業・国を元気にするには組織を小さくするしかない
(トムピーターズとロバート・ウオーターマンが書いたエクセレントカンパニー)

具体的には「道州制」北海道は観光業でアジアのスイス・高度農業国でデンマークにもなれる、九州道は年間千万人の観光客を呼び込める、大阪都構想＝特区という道州制の先行事例を作ること可能、知事は任期 4 年・大統領制に近い強み